


# 肝炎

肝臓は生命を維持するための重要な働きをする、体の中で一番大きな臓器。その高い再生能力ゆえに自覚症状がないまま病気が進行することもあり「沈黙の臓器」とも呼ばれます。


## 「肝炎」って、どんな病気？

**原因はウイルスか生活習慣**



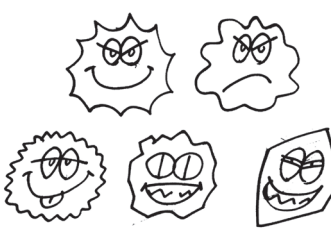
肝炎には主にウイルス性のものと、アルコールが原因のもの、飲酒しない人の脂肪肝から発症するものがあります。

**お酒を飲まない人も安心はできない**



お酒を飲まなくても、脂肪肝から非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）を発症し、肝硬変・肝がんに行進することがあります。

**ウイルス性はA～E型の5種類**



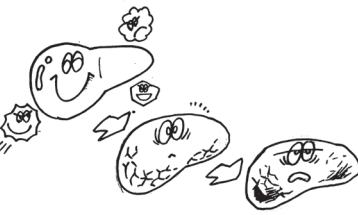
A型とE型は主に食事による経口感染で、慢性化することはまずありません。D型はB型肝炎患者のみに感染します。

**B型とC型は特に注意**



肝がんのうち実に8割が肝炎ウイルスの持続感染によるもの。特にB型とC型で慢性化することが多くなっています。

**肝硬変、肝がんの原因に！**



慢性肝炎になると、特別な自覚症状がないまま、肝硬変や肝がんにまで進行してしまふことがあります。

**C型肝炎は飲み薬で治る**



肝がんのリスクが最も高いC型肝炎は飲み薬で治す時代に。3カ月服用すれば、ほぼ100%ウイルスが消滅します。

## 著しく進歩した「肝炎」の治療

肝硬変や肝がんの原因になることがはつきりとしている肝炎。その治療について肝・胆・膵内科の先生に聞きました。



一生に一度、肝炎の検査を受けましょう

最高水準の医療を提供することが私たちの使命です

肝・胆・膵内科 西口修平 主任教授

肝炎の原因はさまざまですが、圧倒的に多いのがウイルス性のものです。特に慢性化しやすく、肝硬変や肝がんへと進行しかねないのがB型とC型のウイルスによる肝炎です。

B型肝炎は血液や体液を介して感染し、多くの場合は自然に治ります。慢性化する可能性があるのは乳幼児期の感染がほとんどです。大人になってからでも、慢性化しやすい特殊な遺伝子を持つウイルスに感染するケースが増えています。B型慢性肝炎では、ウイルスを体の中から完全に消すことはできませんが、肝硬変や肝がんへと進行しないようコントロールすることが可能です。

2016年10月からは、0歳児へのB型肝炎ワクチンの無料定期接種も始まっています。

C型肝炎は約7割の方が慢性化し、着実に進行していくため、肝がんになるリスクが最も高いと言えます。以前はインターフェロンによる

治療が主流でしたが、2014年以降、ウイルス消去に高い効果を発揮し副作用もほとんどない新しい薬が次々と承認され、C型肝炎は飲み薬だけでウイルスを消去できるようになりました。ただ、ウイルスが完全に消滅しても、持続感染していた間の炎症の影響は残るため、肝がんの定期的な検査が必要です。

皆さんには、とにかくまず肝炎ウイルスの検査を受けていただきたいと思っています。検査は一生に一度で構いません。ウイルスに感染している健康診断の数値には異常が出ないことが多いため、正常値であっても早めの検査をおすすめします。

肝炎では、診断や治療、手術、肝がんの早期発見などにおいて、内科と外科、放射線科等の連携が非常に重要です。兵庫医科大学病院は、肝疾患診療連携拠点病院として、各科がしっかりと連携し、最高水準の医療を常に提供できるように取り組んでいます。